

春をこよひ



Niimi University

2026 | <https://www.niimi-u.ac.jp>

〔特集〕

実践的な学修環境 VR を導入した教育を開始しました。

Event & News 各学科の取り組み紹介

夢に向かって 活動している学生たち

同窓会だより 全体同窓会の開催

教員の活動紹介 地域福祉学科教授 山本 浩史

お知らせ 在学生・学内情報 奨学金のお知らせ



NiIU Homecoming Day 2025

— 新見公立大学同窓生の集い —

実践的な学習環境 VRを導

VR(仮想現実)を導入した教育の背景

近年、医療現場の高度化や災害時対応の重要性が増す中、看護教育には複雑な状況判断や患者対応を安全に学べる実践的な学習環境が求められています。看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）では、デジタルトランスフォーメーション(DX)の活用が教育の柱として位置づけられ、講義・演習・実習にVR（Virtual Reality以下VR）などのXR（Cross Reality）教材を組み込むことで、感染症対応、急性期、周手術期、災害など複雑化する看護課題に対応できる実践力を育成することが求められています。

看護学科では、こうした方針に基づき、2024年12月に「VR看護教育プロジェクトチーム」を設置しました。井上弘子講師をリーダーに3名の教員が参画し、導入説明会や機材研修を経て教育現場で活用を進めています。今後は急性期看護や災害看護を含む多様な場面でのVR活用を研究し、看護教育の質をさらに高めるていく計画です。

VRを使った学習を体験している様子です。看護学科の教員が、井上講師と総務課の武井主任の指導のもと、実践的な教育内容を学びました。



教員が操作方法を確認しながら、楽しく学んでいます。



入した教育を開始しました

実習前に学内で学ぶ

— 成人看護学における VR を活用した新たな取り組み —

本授業では、成人看護学実習の学びをより深めるため、臨地実習に行く直前に学内でシミュレーション演習を導入しました。近年、急性期病院では入院期間が短くなり、患者の状態は短時間で大きく変化します。そのため、学生が患者の変化をじっくり観察し、看護を実践する機会が限られているという課題があります。そこで、臨地での学修がより効果的になるよう、具体的な事例を提示した演習を実習直前に導入しました。内容は、大腸の手術直後の患者を想定し、術後の観察や痛みを和らげる看護を考えるものです。まず、学生はVRのゴーグルを装着し、左右の手にリモコンを持ち、仮想空間の中で患者の様子を体験し、実際の場面をイメージします。写真①、写真②写真③その後、写真④のようにシミュレーターを使って看護を実践し、学んだ内容を振り返りました。VRは初めて体験する学生が多く、興味津々にVRを用いて学修に取り組み、その後の緊張感を持った演習につながられていました。実践を通して観察の難しさや大切さを実感し、できたという達成感にもつながっていました。今後も、看護のデジタル化を見据え、VRを取り入れた多角的な学びを進めていきたいと考えています。



① VR の使用方法について学んでいる場面



② VR を用いて術直後の看護を体験している場面



③ 学生同士で必要な看護を考え共有している場面



④ シミュレーターを用いて術後看護を実践している場面

看護学科

第3回 看護学科キャリア支援セミナー (2025年12月12日開催)

看護学科キャリア支援セミナーを開催しました。看護専門職である看護師、訪問看護師、助産師、保健師、養護教諭として最前線でご活躍されている方や大学院生の先輩方からお話を伺えるとても貴重な機会でした。座学だけでは知ることのできない、現場のやりがいや難しさ、キャリア形成のプロセスなどを知ること、自分自身の将来の姿をより具体的に思い描ききっかけとなりました。自分のなりたい像を改めて考え、自分たちの夢を叶えられるよう大学生活に励んでいきたいです。



看護職の幅広い働き方について聴きメモを取る学生。これから自分に合った進路を見つける大切なステップ。



大学院看護学専攻博士前期課程での研究や学びの魅力や、大学院生・修了生が1年性へ紹介。

健康保育学科

みのり幼稚園交流事業

2025年10月31日にくらしき幼児教育ネットワークの交流事業の一環で、倉敷市から、みのり幼稚園5歳児のみなさんが、新見公立大学に遊びに来てくれました。

保育2年の保育内容「表現」(造形)の指導法での造形表現活動交流を主として、保育4年有志学生と大学の建物を見て回ったり、一緒に遊んだりしました。実際に子ども達と関わって素直な反応を受け止めたり、先生方の関わり方を見せていただいたりする中で、保育実践力が向上したのではないかと思います。



保育2年生と造形表現活動交流
ちぎったお花紙をうちわであおいで大歓声!



保育4年生と「にーみん体操」を踊りました。にーみんを覚えてくれました!

地域福祉学科

上市地区ウォーキング大会

2025年11月8日(土)に共生社会実践演習Ⅱの授業の一環として、上市地区でウォーキング大会を実施しました。当日はウォーキングの前に、ハロウィンをテーマにしたものづくり体験を行い、その後歩きながら楽しめるクイズをし、地域の方々との交流を深めました。

今回は子どもの参加が多く、「また参加したい」という感想も寄せられ、企画を楽しんでいただけた様子がうかがえました。演習で得た学びを活かし、様々な場で活躍できる福祉専門職を目指していきたいと考えています。



ウォーキング後の集合写真



ハロウィンの準備の様子



ウォーキング開始時の様子

「にいみ ゆめのぼけっと2025」を開催しました

「にいみ ゆめのぼけっと」は、子どもたちの育ちを意識したあそびコーナーや舞台発表を企画・実施する過程を通して、子どもへの理解を深め、総合的な保育力の向上を図ることを目的としています。

今年は12月7日に開催し、造形・科学あそび、うんどうあそび、音あそび、おはなしコーナー、カプラ・KUMINO コーナーなどの遊びコーナー、音楽劇、影絵、ダンスなどの舞台発表を行いました。

当日は約250名の方々にご来場いただきました。多くの子どもたちや地域の方々楽しんでもらうことができました。

うんどうあそび
ヒーローになりきって、思いっきり体をうごかして遊びました。



音楽劇
個性豊かな演技と息の合った演奏で、会場のみなさんを魅了しました。

音あそび
たくさんの楽器に実際に触れたり、リトミックをしたりしました。



解剖実習見学

2025年11月17日(月)に、看護学科1年生82人は、大型バス2台に分乗し岡山大学医学部に赴き系統解剖学実習を見学しました。私たちは、予防衣を身に付け、前室でご献体下された方に黙とうを捧げてから、解剖実習室に入りました。実習を進めている医学生から説明を受けながら、人体の構造と機能について、ご遺体から直接学ぶ貴重な体験をしました。座学で学んだことを経験につなげることができたこの見学は、今後の看護の学修に大きな励みとなりました。



解剖実習室の入り口で

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (外部講師を招いて)

ソーシャルワーク実習指導Ⅰの授業で、宇和島市社会福祉協議会の方に来ていただきました。社会福祉協議会は、行政では対応できない、制度の狭間にいる人を救える所が魅力です。生活困窮者支援では地域住民と行政をつなぐ役割を担っていることを聞き、地域にとって不可欠な存在だと思いました。また、困り事を言えない人に対してこちらから出向いていく、アウトリーチ活動の難しさや大切さも学びました。様々な取り組みにおいて、特に大切にされているのは地域住民からの声であり、それを基に住民のためにできる支援を考え、実行されていることが分かりました。今回の学びを来年度のCSW実習に活かしたいです。



卒業生による授業の様子

健康保育学科

「実地体験実習」の一環として 講座を開催しました

2025年12月9日・10日に「富坂子どもの家」(児童発達支援・相談支援施設：東京) 施設長の勝間田万喜先生をお招きして、「子どもの自己教育力を見守り育むとは」をテーマに実地体験実習ステップアップ講座(ひだまりのいえ特別講演会)および特別講座を開催しました。9日は、NiU 新見駅西サテライト「ひだまりのいえ」で行われ、一般の来場者と2・3年生の希望者が参加しました。10日は、1・4年生全員が参加し、講話とグループワークが行われました。学生達にとって貴重な学びの機会となりました。



グループワークの様子(10日)



「ひだまりのいえ」での講話(9日)

地域福祉学科

地域福祉研究発表会

2025年11月19日に、4期生による地域福祉研究発表会が開催されました。

2年次後期から各ゼミ教員の指導を受けながら卒業研究に取り組み、当日はその集大成を発表しました。発表では、積極的な質疑応答がなされ有意義な会となったと思います。私は、自分の研究を通して地域福祉に関わる課題をインタビューによりより深く具体的に掘り下げ、多面的な視点で見ることができるようになったと感じます。また、他の方の発表を聞いて様々な福祉課題について学びを深められたと感じました。この経験を活かし、社会人になっても学び続ける専門職になりたいと思います。



研究発表の様子

看護学科

「その人にとって何が一番大切か」を 常に考えて

2025年12月18日、在宅看護援助論の講義(看護2年生)にて、株式会社訪問看護ステーション yell 社長で本学卒業生の平田晶奈氏を講師に迎え、訪問看護の実際とやりがいについて講義をしていただきました。講義では、訪問中のエピソードから看護師の価値観で考えるのではなく、「その人にとって何が一番大切かを考える」重要性や、利用者や家族の声をDVDで視聴し、医療的視点だけでなく、利用者の思いや人生に寄り添い、その人らしく最期まで暮らす人を支える姿勢が訪問看護師に求められることを伝えて下さいました。



訪問看護ステーション yell 管理者 平田晶奈氏(卒業生)による講義

助産学専攻科

命の誕生をともに喜び、 未来へつなぐ笑顔

助産学専攻科の学生は7月までの学内学習を終え、現在は「分娩介助10例」の要件達成を目指し、年内まで分娩介助や妊産婦への指導を行う実習に励んでおります。学生たちは、受け持ちの妊産婦とご家族からいただいた貴重な経験に心から感謝し、また同時に悔し涙や大きな達成感を重ね、助産師を目指した初心を改めて強くしている様子です。教職員一同、来春、6人の助産師としてそれぞれの現場で輝く姿を楽しみにしています。

妊娠中期から産後1ヶ月まで妊婦さんとご家族に寄り添い続けた継続実習



助産院での様子

空手型の部 中国大会、全国大会ともに3位

坪田 陽菜 (地域福祉学科 3年)

私が空手を学び始めたのは、大学2年生の秋頃です。知人に紹介されたことをきっかけに、空手の流派である厳誠流空手道を学ぶ厳誠塾に通い始めました。稽古には週2回参加しています。

厳誠塾では大学生の生徒は私一人であり、ほかの生徒は地域の子どもや大人の方々です。新見市出身ではない私にとって、これまで地域の方々と交流する機会はほとんどありませんでしたが、空手を始めたことで地域の方との関わりが増え、普段の生活では得られない経験を積むことができました。また、年齢や経験の異なる人々とともに稽古をすることで、相手に配慮しながら学ぶ姿勢や協調性の大切さも実感しました。

師範や周囲の生徒の方々からさまざまな場面でご指導をいただき、立ち方や突き、蹴りなどの基本的な技術を短期間で身に付けることができました。特に型の練習では、細かい手足の動作の正確さや呼吸の使い方、集中力の維持が求められ、毎回の稽古で自分の弱点を確認し改



友人との練習後の様子 坪田さん(右)

善することを意識しました。その結果、令和7年6月に行われた中国大会では、型の一般二部で第3位に入賞しました。また、同年9月に行われた第65回全国大会においても、同じく型の一般二部で第3位に入賞することができました。

空手を通して、単に技術を習得するだけでなく、精神的な強さや忍耐力、目標に向かって努力を継続する姿勢の重要性を学ぶことができました。今後も空手の稽古に継続して取り組み、技術の向上だけでなく、精神面においても成長していきたいと考えています。



表彰後の様子

Towards
Your Dreams

夢に向かって

かむくる食堂 (子ども食堂) 始めました

かむくる食堂 代表 伊木 圭都 (地域福祉学科 3年)

私はサークル活動で子ども食堂に取り組んでいます。「かむくる食堂」が立ち上がるまで、講師を招き、ワークショップを行ったり、他の街の子ども食堂にボランティアとして参加したりしました。その中で、子ども食堂は手段であり目的は人によって様々であることを学びました。子ども食堂の開催を重ねる中で、子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしい、そして保護者の方にとっても、ほっとできる時間になればいいなという思いを持ちながら活動しています。子ども食堂を運営するにあたり、社会福祉協議会の方や地域の皆さんなど多くの方に支えていただき、学生だけでは難しい部分を助けていただいています。これからも地域との繋がりを大切に、子ども食堂が長く続く居場所になるよう頑張っていきます。



NiU Homecoming Day 2025

～新見公立大学同窓生の集い～を開催しました

植樹を終え笑顔で記念撮影する
参加者の皆さん

左：公文学長 右：柴田会長（看護学科
19期生）

2025年11月30日に、開学以来初となる全体同窓会「NiU Homecoming Day 2025」が開催され、同窓生79名が母校に集い交流を深めました。当日は学長講演会や学内ツアーに加え、卒業生と母校をつなぐシンボルとして八重桜の記念植樹が執り行われました。参加者からは「大きく発展した母校の姿に驚き、誇らしく感じた」、「友人や恩師との再会を通じて明日への活力を得た」といった喜びの声が多く寄せられました。本会をきっかけに、自分たちでも同窓会を企画しようという動きも生まれており、仲間や恩師、母校との絆を再確認する貴重なひとときとなりました。

懐かしい
旧友との再会に
笑顔と会話があふれる時間となりました

新見公立短期大学・
新見公立大学 同窓会の
柴田会長があいさつを
されました

ビンゴ大会の様子



卒業アルバム展示コーナーもありました

おやこ・きょうだいの
入学を紹介します
Familia



鳥生 比萌(娘)さん(地域福祉学科3年生)
鳥生(旧二宮)陽子(母)さん

新見女子短期大学地域福祉学科2期生として卒業して、24年後、まさかわが娘が入学することになるとは、あの頃には想像もしていませんでした。娘の入学を機に久しぶりに訪れた新見市は、昔と変わらずそこにある建物、風景に懐かしく、ほっこりしたと同時に、また大学と町の進化に驚き、ワクワクしました。また恩師にも再会でき、嬉しかったです。そして、在学中は自転車しか交通手段のなかった私が今では自動車です。市内を散策できるため、行動範囲を拡げ、新見市の新たな発見をしながら、楽しく過ごしています。

卒業後、障がい者支援に関わり、現在は、愛媛県八幡浜市で相談支援専門員として働いています。昨年、社協に実習に来られた生徒さんに関係機関として関わらせていただくことがあり、熱心に取り組む姿に感心したのと、素晴らしい後輩がいることを嬉しく感じました。娘も友達と一緒に切磋琢磨し、日々人として強くなっていると感じます。いつも温かくいつも見守っていただいている先生方には感謝しかありません。残りの娘の大学生活を応援しながら、親子で新見市をエンジョイしようと思います。

同窓会 だより



倉敷保健推進室
近藤 陽愛さん
(看護学科12期生)

私は、現在倉敷市の保健師として勤務しています。倉敷市内の一つの小学校区を担当し、母子保健・精神保健の個別支援や、健康づくりの推進事業に関わっています。

保健師活動を行う上で大切なのは、コミュニケーション力やアセスメント力です。対象者のもつ力を引き出し、地域で健康に生活できるように支援しています。

自分の力不足に落ち込むこともあります。職場の先輩上司から助言をもらったり、地域の方々からの言葉に励まされたりしながら、頑張っています。

新見公立大学での継続的な家庭訪問実習を通して、対象者さんの経過を捉えてアセスメントを行ってきた経験が現在の業務に生かされていると実感しています。



香川県社会福祉協議会

社会福祉法人
香川県社会福祉協議会
大館 由梨乃さん
(地域福祉学科1期生)

現在、香川県社会福祉協議会の地域福祉課にて、「福祉教育・ボランティア」、「フードバンク香川」、「香川県子どもの未来応援ネットワーク事業」を担当しています。行政、市町社協の職員の方々、住民の皆様と一緒に、地域共生社会の実現に向けた活動に取り組んでいます。

本年度からの勤務のため、まだまだ不慣れな点も多く、先輩や上司の皆様にご指導、ご助言を賜りながら、日々の業務を遂行しています。また、大学生の時の実習やボランティア活動で培いました知識や技術を活かしながら、一つ一つの業務に取り組んでいます。これからも、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために日々精進していきたいと思っています。



1月25日岡山市で14期生の24名の仲間が集い同窓会を開催しました。新見の短大で育んだ看護の基礎、仲間との絆は30年経っても変わりません。会った瞬間に学生に戻った不思議な感覚でした。新見短大に感謝です！
新見女子短期大学 看護学科14期生
星尾 優希(旧姓:田中)さん





この先生に聞きました

雑感：これまでの道程

原稿依頼をきっかけに自分を振り返ってみようと思いました。ある先生から先生は何年大学にいたのですかと聞かれたことがありました。改めて計算してみると大学、大学院での在籍期間は21年間になりました。一言で言えば、学び続けてきた紆余曲折な道のりです…。学部×2学科、修士×2課程、博士×2課程…と結果的にこうなりましたが、自分のなかでは人の倍は努力しなければ、追いつかない…という信条もあります。

新見公立大学（短期大学も含む）での勤務も来年度で10年目になります（大学教員歴は23年目）。大学教員の前は、医療機関と高齢者福祉複合施設に11年間、勤務していました。その頃、現場で矛盾を感じ、医療保険制度と介護保険制度との問題点を社会福祉専攻の修士課程で働きながら研究をしました。その修了後、社会福祉学の博士課程に進むのが筋だと思うのですが、ちょうどその頃、義務教育を中心に「総合的な学習の時間」が創設され、福祉現場がその体験場所の一つとなっていました。私は施設でその担当をしており、子どもたちにどのような教育プログラムを提供したらいいのか悩んでいて、行きつきたのが教育学の修士課程でカリキュラム開発を学ぶことでした。寄り道といえば、それまでですが、今となれば、これが何足ものわらじを履ききっかけになったような気がします。この頃は、大学教員になることなど考えてもなく、仕事に専門性を持たせたいために学んでいたと思います。そして、いろいろな出来事があり、現場を離れ、大学教員になりました。その頃の専門は「ボランティア論」、「福祉教育論」であり、私の出発点でした。



大学教員になって、博士課程に進学しました。社会福祉学と教育学の接点を見出すためにと言い訳にしておきますが、現在では児童福祉の父とも呼ばれる岡山孤児院の創設者、石井十次の孤児教育思



地域福祉学科 教授
山本 浩史

想をテーマに研究を始めました。博士課程といっても社会福祉学の専攻ではなく、政治思想史の師のもとで、6年間指導を受けました。その師からは「その人の言葉で語らしめる、言葉の魔術師にならなければならない…」と言われたのを今もよく覚えています。この石井十次には多くの教育哲学と宗教思想を勉強させられました。

その後も「高齢者福祉」研究をしつつも、教育学の流れからコミュニティ・ベースド・ラーニングの実践、そして、自身の災害支援の経験から災害ソーシャルワークへとさら



に分野が広がりました。結局、何が専門なのか見えなくなり…ですが、現在、担当している科目「社会福祉の原理と政策」は社会福祉学の原論（総論）となる位置付けなので、ようやく自分があてはまった感じがしています。そして、50代の手前、何を血迷ったのか、再び社会福祉学の博士課程に入学し、民生委員制度の原点である岡山県済世顧問制度の研究を始めました。この時の師はジェンダー、ソーシャルワークの研究者で「社会福祉学」の位置付けや視点を大切にすることを叩き込まれた気がしています。その間にも様々な出会いやご縁もありました。その一つに渋沢栄一研究があります。結果論ですが、ありがたいことに一般社会で関心が得られているのは、これら社会福祉思想史研究となっています。また、これらの中にはボランティアが存在していて、ボランティア研究の原論に戻った気もしています。貪欲と言えば貪欲で節操がないと言えばその通りなのですが、たどり着いたのは社会福祉学だと今は、自分の中で言えるようになってきたようにも思います。今後の抱負ですが、…自分のなかに秘めておきます。



アメリカ研修2025を実施しました

2025年9月10～20日、9年ぶりのアメリカ研修を再開し実施しました。2002年の短大時に始め、今回で第11回目でした。訪問地は、新見市の米国姉妹都市のニューヨーク州ニューパルツ、ニューヨークシティ、ソーガティーズでした。健康保育4年生1名、看護4年生1名、2年生4名、地域福祉3年生2名、2年生2名の計10名の学生が参加し、看護学科 磯本暁子教授と山内が引率を行いました。ニューパルツでは、州立大学やミドルスクール、退職者コミュニ



ニューヨーク州立大学ニューパルツ校にて

ティー、医療機関、モホンク山などを訪問し、学生たちは市内の一般家庭にホームステイしました。歓迎会・送別会を含め地域の方々と交流の機会にも恵まれ、学びも多く有意義な研修となりました。 山内 圭



さよならパーティでお世話になった市民の方々と

認定看護師教育課程・第1回公開講座を開催しました

摂食嚥下障害看護認定
看護師教育課程

本講座は、「摂食嚥下障害援助論」の教科目の一環として、精神疾患や認知症を有する対象への援助方法を理解することを目的に開催しました。シリーズ1では井上真一郎先生より「精神疾患の薬剤治療と摂食嚥下障害」、シリーズ2では山本昌子先生より「認知症の理解と摂食嚥下障害への援助」、シリーズ3では浅原佳紀先生より「精神疾患患者の摂食嚥下障害への援助」についてご講

義いただきました。進学希望者や医療・介護従事者など多くの参加があり、本学の認定看護師教育課程の講義の雰囲気を経験するとともに、最新の知見を学ぶ機会となりました。



井上真一郎先生



山本昌子先生



浅原佳紀先生



講義後には活発な質疑応答が行われました

退任のご挨拶



看護学科
上山 和子

退職を迎えて

33年間、お世話になりました。大学も新見女子短期大学、新見公立短期大学、新見公立大学看護学部、新見公立大学健康科学部に合わせ、建物も3号館から、1号館、本館、地域共生推進センター棟と名称変更とともに大きく変化しました。この間に短期大学で17年間、大学での16年間の思い出は、多くの学生との出会いと教職員に恵まれ、新見の地域で教員生活を送れたことです。夢と誠実の理念のもとに益々の大学の発展を祈念致します。



助産学専攻科
四宮 美佐恵

助産学専攻科の設置に伴い赴任して以来の11年間、助産学の発展および次世代を担う助産師の育成に携わる機会を頂き、深く感謝申し上げます。専攻科が今日まで歩んでこられたのは、関係者の皆様のご尽力の賜物です。学生の皆様には、助産学への志を大切に、学びを未来へと確かな力としてつなげていけることを心より期待しております。



看護学科
土井 英子

新見女子短期大学に勤務し、約30年、この3月で退職を迎えます。新見公立大学、大学院看護学研究科の看護教員としての月日を振り返ると、学生の皆さんと共に学び、笑い、時に悩みながらも患者中心の看護とは何かを語ることができた日々でした。良き師に恵まれ、良き仲間とともに看護教育に携われました。心から感謝を申し上げます。



健康保育学科
梶本 佳照

新見公立大学で皆さんと共に授業や活動に取り組むことができ、大変充実した時間を過ごせました。大学に赴任してから、月日が流れるのはあっという間でした。前職の小・中学校教諭時代は、教室で子どもたちと給食や弁当を囲むのが習慣でしたので、こちらでも毎日学食で皆さんとお昼を共にできたことが、何よりの楽しい思い出です。

まんさく

2026年3月号
Vol.70



編集 後記

本号が発刊される頃は厳しい寒さも和らぎ、春の訪れを感じる頃かと存じます。

今号の表紙では、昨年11月に開催した「NIU Homecoming Day 2025 - 新見公立大学同窓生の集い」の様子をご紹介します。当日は多くの卒業生の皆さまに足を運んでいただき、久しぶりの再会を喜ぶ笑顔が溢れる、温かな時間となりました。今後も卒業生の皆さまと共に、本学のさらなる発展に努めてまいります。

特集では、看護学科で進めているVR技術を活用した教育について取り上げています。昨年度から準備を進め、この2025年度後期より本格的に導入することができました。VRの活用によって、フィジカルアセスメント能力や実践力の一層の向上が期待されています。今後は健康保育学科や地域福祉学科にも展開し、より学際的で実践的な学びの場づくりを進めていきます。

また、9月には「アメリカ研修」を9年ぶりに実施しました。医療・福祉の現場を視察し、異文化に触れる経験は、国際的な視野を広げる貴重な機会となりました。今回得られた学びが、学生の今後の成長に大きく活かされることを期待しています。

年度末を迎え何かとお忙しい時期かと存じますが、今後とも卒業生の皆さま、そして地域の皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(宮武)

発刊

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL : <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

浅原 佳紀 井上 信次 入江 慶太
加藤 由美 岸本由梨枝 雑賀 正彦
柴田 知瑞 宮武 一江 村上 留美
谷高 徹 矢野 英樹 山根 千絵

一般財団法人 新見公立大学まんさく会

2025年11月、新見公立大学の教育・研究活動の充実と学生福祉の向上を目的に「一般財団法人 新見公立大学まんさく会」が設立されました。これまでの後援会・同窓会活動に加え、寄附金の管理や奨学金給付、大学グッズの企画・販売などを行い、大学と地域、卒業生、支援者をつなぐ新たな架け橋となります。教育・研究環境の整備や学生生活の質向上に貢献し、地域との交流も促進します。皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

まんさく会イメージ図



奨学金

【奨学金】

高等教育の修学支援新制度の対象校になっています。該当の学生は授業料減免及び給付奨学金を受けることができます。また、日本学生支援機構などの奨学金制度もあります。詳細についてはお問い合わせください。本学独自の奨学金制度については下表のとおりです。

名称	種別	採用人数	金額	内容
新見公立大学 ふるさと育英奨学金 (申請先: 新見公立大学)	給付	健康保育学科4名 看護学科5名 地域福祉学科4名	10万円 (年額)	本学学部入学生の内、成績が優秀であり、かつ本学が定める家計基準を満たした学生に給付します。申請に基づき、入試種別ごとに選考します。
新見公立大学奨学基金 (申請先: 新見公立大学)	貸与 (無利子)	制限なし	30万円 (上限)	本学在学生在が国内外の研修等に参加する場合、または緊急な事情等により経済的に困窮した場合に貸し付けます。卒業までに返還する必要があります。

【授業料減免制度】

次のいずれかに該当する学生は、授業料の全額又は半額が免除される制度があります。
 (1) 経済的理由により学資の負担が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
 (2) 納期前6か月以内(新入生の場合は入学前1年以内)に、学資負担者が死亡または重度障害、災害その他これらに準ずる事由により、学資の負担が困難と認められる者
 ※免除実施可能額には上限があり、減免対象基準を満たしていても、減免を受けられない場合があります。詳細についてはお問い合わせください。



Instagramを始めました。学生たちの何気ない日常や成長の様子を更新しています。卒業生の皆さまや保護者の方に、懐かしさや安心を感じていただけたら幸いです。

